Managing Office
2-5-1, Shikata-cho, Kita-ku
Okayama 700-8558 Japan
Phone:086-235-7023 Fax:086-235-7045
http://www.chushiganpro.jp/

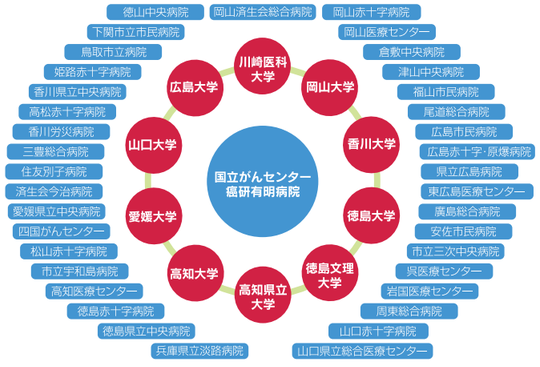
Quarterly Report

VOL.36
2012.Dec

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第１位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等（メディカルスタッフ）の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院

組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織

:コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院

ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることができるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育（共育）と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育（協育）をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォータリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

Column

がんプロ大学院生へのメッセージ

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器・肝臓内科学講座
松原　稔

10年以上前の大学病院では、医学部卒業生の多くが卒業と同時に各医局に所属し、大学病院で初期研修を行っていた。良くも悪くも、医局という存在が卒業したての新米医師を一人前に育てる教育機関として機能していた。私も例にもれず医局に属して、関連病院を含めていろいろな経験をさせて頂き、一人の内科医として育ててもらったと思う。

私が学んだ内科医として重要な資質としては、社会人としての基本的な態度、患者との関係を円滑にするコミュニケーション技術、内科全般の一般的な素養、EBMを正しく理解した上での実践、最新の医療情報を学ぼうとする姿勢、新たな知見を探索しようという精神である。これらの多くは抽象的なものであり、これらの資質を持っているからといって他人にすぐに評価されるとはかぎらないが、これらの資質をおろそかにしている人は一緒に働いている先輩・同僚・メディカルスタッフから高く評価をされることはないように思う。以前は、関連病院を含め医局全体が一つのコミュニティを形成しており、内科医として重要な資質を教育し、適切に評価され、コミュニティの中で適材適所に派遣されるシステムが構築されていた。

ところが、2004年に臨床研修医制度が始まったことにより、医療業界は大きな変革を迎えることになった。この制度の大きな利点として、医学部卒業生はかつての医局という組織に縛られず、自由に研修先が選べるようになり、選択の幅が大きく広がった。一方、医師の偏在化を招く要因となったともいわれており、地域での医師不足・医療崩壊の一因との批判もあった。新しい研修制度の評価がどうであれ、医局を中心として形成していたかつてのコミュニティが崩壊したことは紛れもない事実である。

このことは、研修医や医師にとっていいことばかりとは限らない。まず、自分が思い描く一人前の医師になるために、自分に合った適切な研修先を選択しなければならない。また、医師として十分な資質を得るために自己研鑽に励むことはもちろん重要であるが、十分な資質を得ていたとしても、前述のように医師として重要な資質の多くが抽象的であるため、他人に適切な評価を受けるには時間を必要とすることが多い。自己研鑽に励んでいる証として、また医師としての価値を具現化する手段として、学位をとることや、専門医を習得することは非常に有用である。学位は一昔前に比べ価値が下がったと論じる人もいるが、新たな知見を得ようと研究しない限り手にすることはできないし、専門医は最新の医療を患者に提供すべく自己研鑽に励まなければ習得しえないものである。学位と専門医をともにめざすがんプロという組織が、これからがんに関わる医療の中心人物になるべく大学院生にとって、自己研鑽に励む一助となれば幸いである。

「がんプロフェッショナルコース」でよかった!

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学講座
西森　久和

「がんプロフェッショナルコース(以下、がんプロコース)」は、ひとことで申しますと「がん医療に携わる専門的な医療従事者を積極的に育成することに特化した大学院コース」です。従来の大学院に比べ専門授業が更に追加され、大学院生にとってはよりtightなカリキュラムとなっています。多くの大学院生は基礎研究もしくは診療と並行しなければならないなど、非常に多忙にされていらっしゃるのではないでしょうか。

しかし、大学院を卒業した暁には、自分自身は更に多忙を極めるだけではなく、今度は自分たちが後輩の教育も担わなければなりません。したがって、じっくり腰を据えて学問に集中する期間は今後、留学などを除いてわずかなものになるのかもしれません。その意味では、この「がんプロコース」が学問に集中・没頭できる、残された数少ないチャンスの一つであると思います。

ぜひ、「がんプロコース」での講義・eラーニング、病院実習だけでなく、合同演習をはじめとする様々なイベントに積極的に参加して頂き、できるだけ多くの知識を吸収し、経験を積んでいただければと思います。さらには、中四国にとどまらず全国のがんプロのネットワークを通じて、がん専門医療人同士のつながりを多く築いていただければと思います。

「がんプロコース」の講師はファカルティ・ディベロップメント(Faculty　Development:教育能力を高める実践的な方法)を実践しています。今後、自分たちも後輩に教育をする立場になることを想定して「どのように教えているのか」も意識して授業に臨んで頂けると、より充実したものになると思います。

われわれがんプロコースに携わる教職員は大学院生に「がんプロコース」に入学して良かった！修了して良かった！と実感していただけるよう、今後も様々な努力をしていきたいと思います。そのためには教職員と大学院生との間が密になる必要があると思います。直接対話し、もしくは対話式のポートフォリオ(がんプロを通じて得た情報・知識・症例検討集)などのツールを今後利用しながら、できるだけがんプロ大学院生の時間を有効に利用できる形で、積極的に情報交換をしていきたいと思います。

以上の内容は「がんプロ大学院」に入学された際にお聞きになっているものと思います。よって繰り返しになって恐縮でございます。また、がんプロ事務局からは、「やわらかめの内容でご執筆を・・・」と依頼されましたが、より「がんプロ大学院」を有意義なものにしたいと思いましたので敢えて、文章とさせて頂きました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

Working group

第1回 がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開
～がん薬物療法と高度な看護実践～

日　時:平成24年7月22日(日)13:00～16:30
場　所:岡山コンベンションセンター 2階レセプションホール
参加者:445名(関係者含むと約470名)

総 合 司 会:秋元　典子(岡山大学)
講演会司会:藤田　佐和(高知県立大学)、雄西　智恵美(徳島大学)

今年度は【がん薬物療法と高度な看護実践】

代表　谷本先生のご挨拶

総合司会の秋元先生(岡山大学)

進行の藤田先生(高知県立大学)と雄西先生(徳島大学)

辻　晃仁 医師

【講演者】
・辻　　晃仁 氏(地方独立行政法人 神戸市立医療センター中央市民病院腫瘍内科部長)
　「がん治療における薬物療法の意義と展望 」
　「がん薬物療法についての基本的知識」
・田墨　恵子 氏(大阪大学医学部附属病院 がん看護専門看護師)
　「投与中ショック・血管トラブルへの対処とセルフケア支援」

【終了報告】

中四国全域から445名と過去最多の参加者があり、看護職の皆さまの高度な看護実践への関心の高さを感じる充実した会となりました。アンケート結果より、「化学療法時における看護師の高度実践」、「患者のセルフケア能力を高めるための支援」、「血管トラブルへの対処」、「投与中ショックと予防とセルフケア支援」が役立つ内容として挙げられた項目でした。また、「貴重な学習ができました」、「今回の内容を活かし実践につなげていきます」などのご意見もあり、実践の現場で役立つ学習の機会となったと評価することができました。本年度より、年2回の講演会に継続参加していただいた方にがんプロから修了証を発行することにしました。このことは、皆さまの参加意欲を高めることにつながったのではないかと考えられます。

【講演要旨】
辻　晃仁 氏

がんは特殊な病気ではないということから始まり、複数の遺伝子変化が蓄積して発生するといったがんの発生機序や、がん細胞がどのように悪い細胞であるかということを7つの原罪(①細胞増殖の遺伝子　②細胞死の遺伝子　③細胞分化の遺伝子 ④薬剤耐性の遺伝子 ⑤免疫系の遺伝子 ⑥血管新生の遺伝子 ⑦細胞接着・運動の遺伝子)として、わかりやすく説明がありました。また、抗がん剤の使い方では、毒性は出ても、支持療法などでコントロールし、治療効果を最大にできるように症状を緩和し、がんに対する効果を出すために、薬の種類や組み合わせの工夫、量の調整などをおこなっていく必要性を話されました。

がん化学療法の基本的な考え方では、延命効果の構成や治療の効果について

図を用いてわかりやすく説明され、治療を安全に長く続けることが重要であることを話されました。多剤併用療法や複数レジメの交代使用の必要性、有害反応（副作用）とその対策についても薬剤の特性等を踏まえ、理解しやすいように実際の写真なども用い、明日からの実践に活用できる内容について詳細に説明されました。また、実際に使用されている有害事象記載テンプレート　―誰でもCTCAEで記入できるように―　などの提示もあり、現場での取り組みもご紹介され、参加者は自施設の課題解決への示唆を得ることができました。最後に、看護師へのお願いとして、①化学療法など治療が順調に進むことは最低限のこと、②不安や疑問、喜び、怒り、悲嘆などを患者が相談したり、患者と共有できることが必要、③腫瘍マーカー、画像検査の結果なども、患者さんと共有して、一緒に喜んであげてほしい、④患者目線になるには、実は高い医療知識が必要、⑤患者さんの「ガイド役」、「医者との通訳」を自負してほしい、の5点があげられ、がん化学療法に関わる看護師への熱い期待を述べられました。

田墨　惠子 氏

化学療法における看護師の高度実践として、まず化学療法看護の原則、①意思決定支援、②安全で確実な治療の提供（→最大限の治療効果）、③副作用マネジメント、④セルフケア支援、⑤心理的支援、⑥チームでの支援の6項目について説明され、がん治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開において、化学療法をケアの視点で捉えなおすことや自立という視点などが化学療法と高度な看護実践を考える上で重要であることを話されました。また、化学療法において看護師がとるべき役割として、豊富な知識と根拠に基づく臨床判断によって、目の前の患者にとって最もよい結果になるケアを提供する役割があることを説明されました。化学療法の現場では、常に臨床判断が求められており、疾患・治療に関する観察と患者個人の観察の必要性と高度実践に不可欠な先見性をもつことが重要であることを述べられました。

田墨　惠子CNS

投与中のショックと予防とセルフケア支援に関しては、化学療法における過敏症状とインフュージョンリアクションについて述べられました。過敏症のリスクファクターや原因となりやすい薬剤について説明され、投与速度やモニタリング、患者教育、アナフィラキシーショック時の対応ポイントなど具体的な説明がされました。また、抗がん剤投与に伴う血管トラブルに対しては、アセスメント項目や穿刺部位の選択や観察と使うべきEvidenceからわかりやすく血管選択のポイントについて図を用いた説明があり、参加者は具体的な理解を深めることができました。最後に、先見性をもち、経験から効果的に学ぶことの重要性について会場の皆さまにメッセージを送られました。

【参加者アンケート結果】

参加者445名のうち382名（回答率85.8%）の方から回答をいただきました。メインテーマ「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」については、99%（非常にあった73%、まあまああった26%）の方が興味のある内容、97%（よくわかった55%、まあまあわかった42%）の方が具体的にわかったと回答がありました。また、講演を通して97%の方が、がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機づけになった、94%の方がが看護のキャリア・アップをめざす動機づけになったという回答でした。

講演会場の様子

今回の企画に対して、参加者の99%が興味ある内容であったと答えられていることからも、関心の高いテーマであり、参加者のニーズに応えられた講演会になったのではないかと考えられます。また、「勉強したい」「充実した内容だったので、もう少し時間を長めにしても」「情報収集の場を提供してください」といったご意見もあり、講演会開催は、がん医療・がん看護にコミットし、生涯にわたり自律した専門職として学習を続ける支援の一翼を担えていると評価することができます。

受付の様子

次回は、3名のがん看護専門看護師をお迎えし、「悪心・嘔吐、皮膚毒性への対応とセルフケア支援」「血液毒性、末梢神経障害への対応とセルフケア支援」「治療選択と継続に関わる意思決定支援」をテーマに講演会の開催を企画しています。

文責：藤田　佐和

Working group

Activity report

活動報告

岡山　利益相反を学ぶ

日　時：平成24年9月28日（金）17:30～19:10
場　所：岡山大学　医学部基礎研究棟１階 大学院セミナー室
参加者：30名

講　演：「Reporting biasと利益相反(COI)」 JA高知病院　病院長　曽根　三郎 先生

終了報告

平成23年2月23日に日本医学会臨床部会利益相反委員会（現日本医学会利益相反委員会）から「日本医学会　医学研究のCOI（Conflicts of Interest；利益相反）マネージメントに関するガイドライン」が公表されました。本セミナーでは同委員会・委員長の曽根先生を講師に迎え、「利益相反を学ぶ」と題して、医学研究におけるCOIマネージメントに関する講演を開催しました。

まず、研究者におけるCOI状態とは、研究を適正に実施し、中立な立場で結果を発表し、診断・治療・予防法の確立をすること（公的利益）が医学研究の目的であるが、研究実施にあたり資金面で企業からサポートを受けているために、公的利益と企業利益が衝突している状態という説明から始まりました。その後、臨床試験においてCOI状態が問題となった具体的な事例を列挙され、医学研究と企業の関係性から生じるreporting　biasに関しての説明がありました。また、近年の医学研究における研究資金源の推移を提示され、産学連携活動による研究資金確保の重要性も強調されました。そのため、COI状態は近年の研究にとって避けることは困難であり、適切なCOIマネージメントの重要性が述べられました。講演後半では、COIマネージメントの経緯、現状のガイドライン、基本的な考え方、今後の課題を説明され、COI状態開示の必要性を述べられました。最後に有効な医薬品・機器の開発および標準的な治療の確立・普及のためには金銭関係の透明化された産学連携の推進が必要であり、産学連携に取り組む研究者（COI状態）が高く評価される環境が重要であると強調されました。

今回のセミナーは、実際の医学研究に関わる重要な問題であるため、大学院生だけでなく、臨床・研究に従事する教員も多数参加されていました。講演の後は、実際のCOI開示に関する具体的な質問を中心に活発な議論が交わされ、熱気に包まれたまま終了となりました。

【講演】

【質疑応答】

岡山　第6回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年7月25日（水） 19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階 カンファレンスルーム（11D）
参加者：17名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
■「放射線治療装置のQAについて今いちど考えてみよう
～米国と日本の対比から見えるもの～」
藤田保健衛生大学医療科学部放射線学科　講師　林 直樹 先生
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、藤田保健衛生大学医療科学部　林 直樹 先生にご講演を頂いた。学会等において研究・教育の中心を担っている先生であり、国内外の実践的な内容を中心に、手技に関する内容や運用管理体制などについて概説して頂いた。フリーディスカッションでは、人材育成ならびに地域が抱えている問題について議論を展開した。議論を通じて、現場側と教育側が問題解決に向けてお互いにアプローチし、解決に向けて話し合う良い機会となったのではないかと考える。
地域からの参加者より、「なかなか全国学会に参加できる機会が少ないため、このような機会を設けて頂くことにより、第一線で活躍されている先生のお話を地域で聞くことができ、しかも目の前でお互いに議論ができ、意識を高めることができたため満足度は非常に良好であった」、「学会で活躍されている先生のお話を聞いて、実際に実践していくにあたり、地域の中堅が中心となって意識を高めて引っ張っていくことが重要である」との意見があった。

山口　第3回 がん治療スキルアップコースインテンシブセミナー

日　時：平成24年7月26日（木） 18:00～19:15
場　所：山口大学医学部霜仁会館3F
参加者：83名

講　演
テーマ：「最新の放射線治療法とは？」
「最新の放射線治療法」
講師：山口大学大学院医学系研究科
放射線治療学分野教授　澁谷 景子 先生

終了報告

本セミナーは「最新の放射線治療法」と題して、山口大学大学院医学系研究科 放射線治療学分野教授　澁谷 景子 先生によるセミナーを開催した。
最初に、放射線治療の総論として利点や欠点、特徴などについて述べられ、「放射線治療とは科学のメスでがんを斬る」と話され、その詳細説明があった。
次に、放射線生物学や放射線物理工学の説明がなされ、放射線治療がどのような考えに基づいて治療効果をあげてきたのかという内容を具体的に説明された。
最後に、最新の放射線治療は高精度放射線治療を中心に照射技術が急速に進歩しており、治療効果を確実に上げるためには過去の放射線生物学的治療法開発の成果と新たな放射線物理工学の開発成果をうまく組み合わせることが重要であると強調されしめくくられた。

徳島　臨床腫瘍地域医療学コース（インテンシブ） 第1回 地域医療セミナー

日　時：平成24年7月26日（木） 19:00～20:40
場　所：健康保険鳴門病院 大会議室（3階）
参加者：64名

講　演
テーマ：鳴門と板野とのがん診療連携 ～患者さんの安心のために～
1）開会ご挨拶
徳島大学病院 がん診療連携センター・がん診療連携部門長　金山 博臣 先生
板野郡医師会 会長　有住 基彦 先生
2）「徳島大学病院　がん診療連携センターについて」
徳島大学病院 がん診療連携センター副センター長　古本 博孝 先生
【座長】徳島大学病院 がん診療連携センター副センター長　古本 博孝 先生
3）「乳がんの最新治療」食道・乳腺甲状腺外科 教授　丹黒 章 先生
4）「大腸がんの最新治療」消化器内科 助教　宮本 弘志 先生
5）「肺がんの最新治療」呼吸器・膠原病内科 講師　柿内 聡司 先生
6）「前立腺がんの最新治療"ロボット支援手術"」泌尿器科 教授　金山 博臣 先生
【座長】徳島大学病院　呼吸器・膠原病内科 准教授　埴淵 昌毅 先生
7）「子宮がん治療の現況」産科婦人科 特任教授　古本 博孝 先生
8）「当院での放射線治療」放射線治療科 助教　川中 崇 先生
9）「健康保険鳴門病院におけるがん診療の現状と今後の展望」
健康保険鳴門病院 産婦人科部長　漆川 敬治 先生
10）閉会ご挨拶：鳴門市医師会 会長　福田 徹夫 先生

終了報告

今回のセミナーは、徳島大学病院、鳴門市医師会、板野郡医師会、健康保険鳴門病院による、がん診療連携を考え深めるためのがん診療連携セミナーであり、大学病院から乳がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、前立腺がんの最新治療、放射線治療の現状について講演された。鳴門病院からは、鳴門病院におけるがん診療の現状と今後の展望に関して講演された。医師、看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士、事務、MSWと多職種の参加者があり、活発な意見交換が行われ、大学病院と鳴門市・板野郡との連携が深められた。
徳島大学病院と鳴門市・板野郡とのがん診療地域連携を、改めて考えるいい機会であり、結果、連携のあり方への理解を深められ、参加者からも良好な評価であった。今後、他の医療圏の医師会とも連携を深めるために、同様のセミナーを継続する予定である。

岡山　第7回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年7月28日（土） 13:00～18:20
場　所：岡山大学大学院保健学研究科　保健学科棟3F　301室
参加者：17名

大学院公開講座「放射線治療品質管理学特論」
司会　岡山大学大学院保健学研究科　笈田　将皇
講師　国立がん研究センター東病院　臨床開発センター粒子線医学開発部
粒子線生物学室　室長　西尾 禎治 先生

終了報告

本セミナーは、毎年開講している大学院保健学研究科「放射線治療管理学特論」の一部を公開形式としてジョイント開催された。今年度は県内参加者も増えており、がんプロ活動が周知されつつあると思われる。粒子線治療開発の第一人者である講師から、定期的に実際の粒子線治療の内容を基礎から応用まで幅広く講義していただき、将来、中四国地区に導入された時にも対応がしやすい環境となっている。次年度以降は、有意義な内容なので、より学生に周知させたいと考えている。
参加者の評価として、「このような講義をセミナー企画として開催していただくと理解を深めることができ、満足度は非常に良好であった」との声があり、講義科目の一部であるため、内容は基礎的な範囲が中心であるが、実務に絡めて応用する話題も多く、有意義であったと思われる。

徳島 がん栄養セミナー

日　時：平成24年7月28日（土） 15:00～18:00
場　所：徳島大学薬学部2階　第1講義室
参加者：94名

講演1．緩和医療
岡山大学大学院　緩和医療学　教授　松岡 順治 先生
講演2．術後に併発した嚥下障害で苦労した症例
山中温泉医療センター　センター長　大村 健二 先生

終了報告

はじめに、岡山大学大学院　松岡　順治先生より、がん医療に携わる栄養士に必要な緩和医療の考え方、意義、実際の取り組みについてわかりやすくご講演いただいた。特に、医療はみんなが幸せになるためのものであるという緩和医療の考え方や、痛みのコントロールには痛み日記などにより日々の変化をモニターする必要があることを学んだ。また、チーム医療を推進する上で、ミッションとビジョンの共有、大きな目的のために働くこと、ミッション・ビジョンの下では平等であることが必要であることを説明された。終末期医療の充実には、人間的関係性の充実が重要であることを学んだ貴重な講演であった。

次に、山中温泉医療センター　大村 健二 先生より、がん治療における栄養管理において、経口摂取の重要性をわかりやすくご講演いただいた。特に、経口摂取をしないことは、摂食・嚥下に関わる筋肉の廃用性萎縮を招くことから、絶食はできるだけ避けることや、食べてはいけないというよりも、本人が食べられるものであれば、食べるようにすることが重要だと実際の症例を交えて説明された。また、がん患者では、廃用性萎縮による骨格筋の減少も問題であり、栄養状態の改善は、廃用性萎縮を抑えることで骨格筋の減少を抑えるだけでなく、化学療法などに伴う有害事象の減少やQOLの改善にも有効であることを講義いただいた。

参加者からの質問も多く、活発な会となり、この分野の専門家の話を直接聞く機会を提供できた。参加者からも、「高度な栄養管理について学ぶことができ、充実した内容だった」と好評であった。

広島 PHITS2講習会

日　時：平成24年7月28日（土） 9:30～17:05
　　平成24年7月29日（日） 9:50～15:15
場　所：広島大学　霞キャンパス　医歯薬保健学研究科（基礎・社会医学棟2階セミナー室2）
参加者：36名

内　容
講　師：橋本 慎太郎 先生（日本原子力研究開発機構）
■7月28日（土）
PHITS2の概要説明・インストール
基礎実習 Ⅰ-1（体系の作成方法）
基礎実習 Ⅰ-2（線源の設定方法）
基礎実習 Ⅱ（タリーの設定方法）
■7月29日（日）
基礎実習Ⅲ-1（輸送計算に関する設定）
基礎実習Ⅲ-2（核反応モデル・核データの設定）
特別実習（ボクセルファントムの設定及び利用方法）

終了報告

日本原子力研究開発機構の橋本慎太郎先生に、高精度放射線治療の医学物理的研究開発において重要な役割を果たすモンテカルロ・シミュレーションコード「PHITS2」について、インストール方法や設定ファイル形式等の基礎的な使用方法、さらには放射線治療に特化した使い方などに関する講義をしていただき、質疑応答を行った。

参加者からは、「モンテカルロ・シミュレーションコードに関して、一からゆっくりと教えていただけたので、とても分かりやすく、今後に役立つ講習会でした」との声があり、中四国地区でPHITS２に関する講義が行われたのは初めてだったこともあり、受講者にとって大変有意義な講習会を提供できたと思われる。

徳島 第4回 中・四国放射線治療夏季セミナー

日　時：平成24年8月4日（土） 13:50～18:00
　　平成24年8月5日（日）　9:00～12:00
場　所：神石高原ホテル
参加者：62名

【8月4日（土）】
■開会挨拶　徳島大学　生島仁史先生
■**「放射線生物学入門」** 座長：川崎医科大学　小西圭先生／講師：広島大学　西淵いくの先生
■**「画像診断の進歩と放射線治療」** 座長：岡山大学　片山敬久先／講師：鳥取大学　谷野朋彦先生
■**「How to 治療計画」** 座長：山口大学　高木海先生／講師：川崎医科大学　小西圭先生
■**「腫瘍救急病態・緩和医療」** 座長：香川大学　戸上太郎先生／講師：愛媛大学　濱本泰先生
■**「留学体験記」** 座長：広島大学　西淵いくの先生／講師：徳島大学　川中崇先生
■**「放射線腫瘍学という選択肢」** 座長：徳島大学　生島仁史先生／講師：山形大学　根本建二先生
【8月5日（日）】
■**「症例報告」** 座長：愛媛大学　濱本泰先生　演者：高知大学　片岡優子先生／香川大学　戸上太郎先生
座長：鳥取大学　谷野朋彦先生　演者：岡山大学　片山敬久先生／山口大学　高木海先生
■**「放射線腫瘍医のすすめ」** 司会：高知大学　西岡明人先生
島根大学　猪俣泰典先生／香川大学　柴田徹先生／山口大学　澁谷景子先生
■**「優秀講演賞表彰と閉会の挨拶」** 徳島大学　生島仁史先生

終了報告

放射線腫瘍医、研修医、学生を対象として、2日間にわたる集中講義を行い、講師の先生方より放射線治療に必要な基礎知識から最新の診療情報までご教示いただいた。特別講演では、日本放射線腫瘍学会の教育担当理事　根本　建二先生をお招きして、現在の日本の放射線治療が抱える問題点、放射線腫瘍医育成の重要性をご説明いただいた。シンポジウムでは、放射線治療の将来性や進むべき方向に関して討議し、多くの参加者から意見を集めることができた。

教育講演、症例提示の内容は、基礎から応用まで幅広く、学生や研修医にも理解しやすいものであった。参加者からの質問も多く、集中して熱心に聴講していた。アンケート結果では、全員が本セミナーは有益であったと評価した。参加者からは、「今後は実際にＰＣを使用して治療計画を行ったり、症例を提示して治療方針に関して議論するなど、治療計画実習を取り入れてもらいたい」といった前向きな意見も多くあった。

岡山 第8回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年8月7日（火） 19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：22名

座長　岡山大学病院医療技術部放射線部門　大野　誠一郎
■**「腫瘍DWIを科学する」**
広島原爆障害対策協議会　健康管理増進センター
放射線科　田村　隆行　先生
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、放射線治療への応用を視野に入れたＭＲＩの最新技術に関する講演が行われた。ＭＲＩ装置の撮像原理から臨床応用に関する最新情報に至るまで、幅広い内容でわかりやすく概説して頂き、さらに腫瘍DWIの先端的な研究について講師の経験談を交えて講演をして頂いた。質疑応答では、臨床現場での課題や将来展望に対する質問とともに放射線治療への応用の可能性など活発な議論が交わされ、盛況に終わった。

参加者からは、「放射線治療では、腫瘍の性質などにより感受性が異なり、それらを定量的に評価するためには様々な画像診断や臨床検査が必要とされ、幅広い知識が必要とされる。今回のセミナーはMRIの腫瘍イメージングに関して、最新の技術応用について視野を広げた企画として有用だった。」との声があり、好評であったと思われる。

徳島 Cancer Meeting in Tokushima 2012 「International Symposium in Tokushima」

日　時：平成24年8月11日（土）13:00～15:00
場　所：徳島グランヴィリオホテル
参加者：39名

講　演
総合司会：丹黒　章 先生　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授

1. 「Obesity, Inflammation and Breast Cancer」
Dr Andrew J. Dannenberg
（Professor of Medicine, Weill Cornell Medical College）
司　会：高山 哲治 先生
（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　消化器内科学 教授）

2. 「Prevention of colorectal cancer」
若林 敬二 先生（静岡県立大学　環境科学研究所 教授）
司　会：松岡 順治 先生
（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　緩和医療学 教授）

終了報告

今回のInternational Symposium in Tokushima 2012では、2名にご講演をいただいた。最初に、アメリカニューヨーク州コーネル大学の乳がんを専門とするDannenberg先生より、乳がん細胞と間質細胞の相互作用を調べた研究のデータを示して頂きながら英語でご講演いただいた。次に、静岡県立大学のがん予防研究を専門とする若林先生は、大腸がん予防の研究についての膨大なデータをご紹介くださった。質疑応答では、相互作用の機序、予防の方法等、参加者からの質問も多く、討論も活発に行われ大変有意義なもので、今回の講演は、参加者にとって非常に分かりやすく貴重な講演であった。

岡山 第12回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日　時：平成24年8月15日（水）19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：14名

司会進行　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
「がんプロ活動における人材育成の役割と臨床現場での課題について」
①現状と課題：岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
②指定発言　：岡山大学大学院保健学研究科　研究科長　岡本 基
岡山大学病院医療技術部放射線部門　技師長　稲村 圭司
倉敷中央病院放射線医療センター　放射線治療室　室長　山田 誠一
③フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、がんプロ活動における人材育成の役割と臨床現場での課題に関するシンポジウムが行われた。これまでのがんプロ活動の実績を報告するとともに、臨床現場で抱えている課題について岡山大学病院の稲村技師長および倉敷中央病院の山田室長から、また保健学研究科で抱えている課題について岡本研究科長から発言を頂き、参加者の意見も交えて議論を行った。今後の若手人材育成や将来展望に関して活発な議論が交わされ、現場で抱える問題や保健学研究科で抱える問題について意識共有することができた。
参加者からは、「問題をどのように解決していくべきか、新たな議論が今後必要である」との声があり、今回の議論を通して、問題解決に向けて考えるきっかけが生まれ、社会人や学生にとって、今、自分が何を学び、何をすべきかを良く考える機会となったと思われる。

広島 Hiroshima Oncology Seminar 2012

日　時：平成24年8月16日（木）19:00～
場　所：広島大学病院広仁会館　大会議室
参加者：68名

講　演
テーマ：「～B型肝炎ウイルス再活性化について～」
【特別講演①】19:10～19:30
座長：広島大学病院　がん化学療法科　教授　杉山 一彦 先生
演題：**『当院でのＢ型肝炎ウイルス再活性化に関する経験』**
演者：広島大学病院　消化器・代謝内科　講師　高橋 祥一 先生
【特別講演②】19:30～20:30
座長：広島大学原爆放射線医科学研究所　腫瘍外科　教授　岡田 守人 先生
演題：**『Ｂ型慢性肝炎治療の進歩と残された問題点**
～再活性化・発癌抑制・HBｓ抗原陰性化を踏まえて～』
演者：国家公務員共済組合連合会　虎の門病院　肝臓内科部長　鈴木 文孝 先生
【総　括】
広島大学大学院医歯薬保健学研究院　応用生命科学部門　消化器・代謝内科　教授　茶山 一彰 先生

終了報告

広島大学病院消化器・代謝内科　講師　高橋 祥一 先生より、「当院でのB型肝炎ウイルス再活性化に関する経験」について、国家公務員共済組合連合会　虎の門病院　肝臓内科部長　鈴木 文孝 先生に、「B型慢性肝炎治療の進歩と残された問題点～再活性化・発癌抑制・HBｓ抗原陰性化を踏まえて～」の報告をしていただき、質疑応答を行った。

岡山 第9回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年8月29日（水）19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：18名

座長　岡山大学病院医療技術部放射線部門 技師長　稲村 圭司
■**「放射線部門における専門技術者育成における現状と課題」**
徳島大学病院診療支援部診療放射線技術部門 技師長　多田 章久 先生
■**「放射線治療品質管理部門の現状と展望」**
徳島大学病院放射線診療品質管理室 佐々木 幹治 先生
■フリーディスカッション

終了報告

この度、徳島大学病院より診療放射線技術部門技師長 多田　章久先生と放射線治療品質管理部門　佐々木　幹治先生に、徳島大学病院の現状と課題を講演して頂き、臨床現場で抱えている課題について参加者の意見も交えて議論を行った。今後の若手人材育成や将来展望に関して活発な議論が交わされ、現場や教育機関で抱える問題、今後のがんプロでの連携などについても意見を交換することができ、盛況に終わった。
現場側としては、学生教育の質の向上や臨床現場との連携を深めることが課題であり、現場スタッフとどのように解決していくべきか新たな議論の必要があった。今回のセミナーは、今後の活動を通して、具体的にどのような行動計画が必要とされるかを考える良いきっかけになったのではないかと思われる。

広島 CNS Germ Cell Tumor Meeting in Hiroshima 2012

日　時：平成24年9月4日(火) 19:00～20:00
場　所：ホテルグランヴィア広島3階　「天平」
参加者：40名

講　演
「頭蓋内germ cell tumorの自然史から見た治療戦略」
　座長　広島大学病院がん化学療法科　教授　杉山 一彦　先生
　演者　埼玉医科大学　名誉教授　松谷 雅生　先生

終了報告

　埼玉医科大学名誉教授　松谷 雅生 先生をお招きして、「頭蓋内germ cell tumorの自然史から見た治療戦略」について報告していただき、質疑応答を行った。

山口 第4回 がん治療スキルアップコースインテンシブセミナー

日　時：平成24年9月5日(水) 18:00～19:00
場　所：山口大学医学部霜仁会館3階　多目的室
参加者：54名

講　演
「がん緩和治療ー疼痛マネジメントー」
　講師：山口大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科　松元 満智子 先生

終了報告

　この度、山口大学医学部附属病院麻酔科蘇生科　松元　満智子先生による「がん緩和治療-疼痛マネジメント-」のセミナーを開催した。
　はじめに、緩和医療学の総論として「苦しみの構造」、「苦しみを緩和する２つの方法」、「緩和ケアの目的」についてわかりやすく説明があった。
　次に、実際の薬物療法を使った疼痛マネジメントとして、薬の選び方や使い方、薬の特徴や使用時の注意点などまとめた各論について説明があった。引き続き、薬物以外の疼痛マネジメントとして神経ブロックについて説明があった。
　また、全人的苦痛として「身体的苦痛」、「精神的苦痛」、「社会的苦痛」、「スピリチュアルな苦痛」の4つを挙げ、その中でも「スピリチュアルな苦痛」が患者にとっては一番の苦痛であるとの説明があった。
　最後に、がん緩和治療には早期からの緩和ケアの導入、多職種によるチームでの関わりが最も重要であると強調された。
　講演後、会場からは活発な質問があり、とても有意義なセミナーであった。

高知 第1回 インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)集中セミナー

日　時：平成24年9月8日(土) 13:30～16:30
場　所：高知商工会館3階　寿の間
参加者：55名

講　演
テーマ：「良好な地域連携の構築を目指して」
総合司会　高知大学医学部附属病院
　　がん治療センター 部長　小林 道也 先生
第1部　講演①「在宅がん医療について　高知県の現状」
　　高知県健康政策部健康対策課 課長　福永 一郎 先生
　　講演②「拠点病院医師による事例提示」
　　高知大学医学部附属病院
　　がん治療センター 副部長　岡本 健 先生
第2部　「多職種によるワークショップ」
　　ファシリテータ：市川 英明 先生（かもだの診療所 院長）
　　川添 哲嗣 先生（くろしお薬局 薬剤師）
　　原　一平 先生（高知医療センター緩和ケア内科 科長）
　　和田 忠志 先生（あおぞら診療所高知潮江 院長）

終了報告

　今回のセミナーでは、第1部で高知県健康政策部健康対策課課長　福永　一郎　先生より『在宅がん医療について　高知県の現状』、高知大学医学部附属病院がん治療センター副部長　岡本　健　先生による『拠点病院医師による事例提示』の2つの講演が行われた。第2部のワークショップでは、多職種からなる小グループで、がん患者を在宅へ移すための問題点や課題、またその対応について議論が交わされた。その後、発表を行い、参加者全員に修了証書を授与した。
　参加者からは、「他職種との意見の交流ができた。知らなかった分野の存在を知ることができ、今後の参考になった。」「多職種の方との繋がりができ、有意義な時間だった。」「地域で今後取り入れていきたいと思う。」などの感想があり好評のうちに終了した。

広島 大腸がんの治療について

日　時：平成24年9月12日(水) 18:30～
場　所：広島大学病院外来棟3階　大会議室
参加者：36名

講　演
座長　広島大学病院　がん化学療法科　教授　杉山 一彦　先生
「早期大腸癌に対する診断と内視鏡治療」
　広島大学病院　内視鏡診療科　助教　岡 志郎　先生
「大腸癌に対する外科治療と multidisciplinary approach」
　広島大学病院　消化器・移植外科　講師　檜井 孝夫　先生

終了報告

　今回のセミナーでは、広島大学病院　内視鏡診療科　助教　岡　志郎　先生に「早期大腸癌に対する診断と内視鏡治療」を、広島大学病院　消化器・移植外科　講師　檜井　孝夫　先生より「大腸癌に対する外科治療とmultidisciplinary approach」についてそれぞれ報告していただき、質疑応答を行った。

岡山 第13回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日　時：平成24年9月12日（水） 19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：17名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田　将皇
■**「放射線治療センターの立上げ経験と現状」**
　岡山中央病院放射線科　加茂前　健
■フリーディスカッション

終了報告

　今回は、「放射線治療センターの立上げ経験と現状」について、岡山中央病院放射線科　加茂前 健先生による講演が行われた。最先端の放射線治療装置について概説して頂くとともに、現場での対応について細かく説明して頂き、わかりやすくとても参考になる内容であった。最後に、岡山市内における放射線治療の状況について意見交換や情報共有を深め、がんプロ活動を通じて人材育成を図っていける体制作りを議論し、盛況に終わった。
　参加者からは、「今回は、岡山中央病院放射線センターに新規導入された放射線治療施設の立ち上げに関する講演でした。以前に、同施設に導入される放射線治療装置の開発者に講演して頂いていたので、概要を把握した状態で現場の話を聞けて、スムーズに理解することができました。」との声があり、セミナー参加を通じてモチベーションを高め、専門的な知識を身につけられることが期待されている。

山口 第5回 がん治療スキルアップコースインテンシブセミナー

日　時：平成24年9月19日（水） 18:00～19:00
場　所：山口大学医学部霜仁会館3階　多目的室
参加者：41名

講　演
「がん緩和治療－精神腫瘍学－」
　講師：山口大学医学部附属病院　精神科神経科　松原 敏郎 先生

終了報告

　この度、「がん緩和治療－精神腫瘍学－」と題して、山口大学医学部附属病院精神科神経科　松原　敏郎先生による「がん緩和治療」セミナーを開催した。
　はじめに、「精神腫瘍学（サイコオンコロジー）とは何か」、「緩和ケアとは何か」、「スピリチュアルペインとは何か」を総論的に述べられた。続いて、がん告知による心理的負担、がん患者の心理特性における心理の変移について説明があった。
　次に、がん患者とのコミュニケーションにおける、話を聴くスキルとしてアイコンタクト、相づち、要約等が重要であり、患者が「わかってもらえた」と感じてもらうことが大切であると述べられた。
　最後に、がん患者の合併頻度の高い精神症状として、不眠症、せん妄、適応障害、うつ病、自殺があり、それぞれの働きかけや対応等を詳しく述べられた。
　セミナー終了後、会場からは多職種からの質疑が多数あり、有意義なセミナーであった。

岡山 第14回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日　時：平成24年9月19日（水） 19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：22名

座長　岡山大学病院医療技術部　赤木 憲明
■**「DiscoveryCT750HD GSI（Gemstone Spectral Imaging）その特長と利点　…仮想単色X線画像を中心に…」**
　GEヘルスケア・ジャパン株式会社　CT Sales & Marketing部
　西日本営業技術　中四国　担当　中埜　泰暢
■フリーディスカッション

終了報告

　今回のセミナーでは、Dual Source CTの仮想単色X線画像に関する講演が行われた。Dual Source CTは、近年注目されている新しいCT装置であり、岡山大学病院にも導入されている。講演では、ソフト面を中心に、新しい技術に関わる内容を基礎から応用までご講演いただいた。
　講演後は、今後のCT機器開発体制の課題や将来展望に対する積極的な質問があり、充実した質疑応答となった。
　参加者からは、「CT装置開発メーカーの講師にとてもわかりやすくお話ししていただき、意見交換をすることができた。また、大学院生や新人にとっても、大学で学習した知識を再構築できる良い機会であった。」、「セミナー参加を通じて、スキルアップやモチベーションを高められることができ、若手もベテランも専門的な知識を身につける上で、有意義であると感じました。」との声があった。

岡山 第2回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年9月26日（水） 19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：20名

座長　岡山大学病院医療技術部放射線部門　技師長　稲村 圭司
■**「当院放射線部における組織改革と専門技師育成への問題点」**
　香川大学医学部附属病院放射線部　技師長　加藤 耕二　先生
■フリーディスカッション

終了報告

　香川大学医学部附属病院放射線部　技師長　加藤　耕二　先生をお招きして、香川大学における部内の人材育成、人事評価や体制整備について講演していただいた。実際の運用事例として参考になり、コンソーシアム内における人材育成プログラムの構築と臨床応用、現場スタッフ間での連携体制についても議論を行った。質疑応答では、臨床現場での課題、将来展望に対する質問とともに、岡山大学のスタッフによる現場側からの意見に対しても非常に活発な議論が交わされ、盛況に終わった。
　参加者からは、「大学病院においても施設内で課題を抱えることが多く、今回、香川大学の現状について講演していただき、人材の運用管理体制や若手育成がどこの施設も手探りで進めている現状がわかった」、「がんプロでの役割は大きく、特に大学院教育との連携や卒後教育について、教育側だけでなく臨床側の課題も多い状況が次第にわかってきた。臨床教育においては、大学病院が果たす役割が大きいため、部内の体制整備は重要な課題である。」、「今回の講演を通じて、教育側と臨床側が連携した活動が必要であることを認識した。今後もセミナー活動を通じて、人材育成や技術向上に繋げて頂けることを期待します。」などの声があり、今後も多様な意見に対して議論することで参加者のモチベーションを高めていきたいと考える。

徳島 臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ) 第2回 地域医療セミナー

日　時:平成24年9月27日(木) 19:30～21:20
場　所:徳島県医師会館、三好市医師会准看護学院(※Web 中継)、徳島県立海部病院(※Web 中継)
参加者:82名(内、Web中継先7名)

講　演
テーマ:**がん診療連携とクリティカルパス**
総合司会　徳島県がん診療連携協議会診療連携部会部会長　金山 博臣 先生
■開会挨拶　徳島県がん診療連携協議会会長　福森 知治 先生　　徳島県医師会会長　川島 周 先生
■**講演①「肝炎･肝がんの診療連携パス運用の現状」**
■**講演②「徳島大学における肺癌連携パスについて」**
■**講演③「乳がん連携パスと治療の記録ノート」**
■**講演④「婦人科がん連携パスと患者手帳」**
■**講演⑤「前立腺癌の最新治療と医療連携」**
■**講演⑥「胃がんの診療連携パス運用の現状」**
■**講演⑦「大腸がんの診療連携パス運用の現状」**
■**講演⑧「徳島大学病院におけるがん地域連携パスへの取り組み」**
■**講演⑨「がん連携 受け手側より」**
■**講演⑩「がん患者を経験して」**
■ディスカッション
■閉会挨拶　徳島県医師会副会長　木下 成三 先生

終了報告

今回のセミナーは、徳島県がん診療連携協議会の主催で、徳島県医師会、徳島県、中国･四国広域がんプロ養成コンソーシアム共催のもとに、5大がん、子宮がん、前立腺がんの、診療連携パスを使ったがんの診療連携の充実を目的として開催された。
各がんの連携パスを用いた連携の現状報告、連携の受け手側である徳島県医師会からの現状およびアンケート報告、患者側代表からの意見が発表され、がん診療連携について理解と認識を深められる内容であった。徳島県がん拠点連絡協議会、がん部会、徳島大学病院、徳島県医師会のがん診療連携の現状を把握するとともに、患者側の意見も聞くことで、今後すすめるべき連携の方向を参加者とともに共有できた。
参加者からのアンケート結果は、「大変良かった」17%、「良かった」56%と良好な評価であり、有意義なセミナーであった。

高知 第1回 がんプロ講演会

日　時:平成24年10月10日(水) 18:30～19:30
場　所:高知大学医学部　臨床講義棟第3講義室
参加者:49名

講　演
司会　高知大学医学部　泌尿器科学 教授　執印 太郎 先生
「がんと人間と社会」　日本対がん協会 会長　垣添 忠生 先生

終了報告

当日はあいにくの天気でしたが、学外からも参加いただき、参加者は49名でした。
本講演会では、日本対がん協会会長である垣添 忠生先生に、「がんと人間と社会」と題して、がんに関する哲学的な考えや、がんの予防と検診、わが国のがん対策などについてご講演いただいた。
参加者からは、「人が「生きること」「死ぬこと」「再び歩き出すこと」について考える時間となりました。」、「がんに対して予防、検診を含めて広く生活に密着させた姿勢で医療者として取り組むことの重要性を感じました。」などの意見があり、大変有意義な時間を過ごすことができたと思われる。

岡山 第10回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時:平成24年10月10日(水) 19:00～20:30
場　所:岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム(11H)
参加者:14名

座長　岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
■**「放射線治療でがん患者を目の前にした時に知っておきたい知識」**
関西労災病院 放射線科　薮田 和利　先生
■フリーディスカッション

終了報告

この度、放射線治療の臨床現場におけるがん患者への対応や必要な知識について、関西労災病院の薮田和利先生から講演していただいた。がん患者が抱えている心理の理解について、医療従事者側から発する言葉ひとつひとつに重さがあることを再認識させられた。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見が多数あり、活発な議論がなされた。
参加者からは、「今回のセミナーは、従来の臨床課題とは異なる視点でテーマが設定されていてとても新鮮でした。臨床現場に従事するスタッフとしても、がん患者の心理を良く理解し、対応できるようになりたいと考えています。」、「多職種との連携や、意識共有を図ることの重要性も学びました。セミナー内容については、様々なアプローチで設定されていて充実していますが、今後も継続的に企画していただきたいと思います。」との声があり、今後は更に多職種も交えて意見交換することができるようにしたいと考えている。

岡山 第11回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時:平成24年10月13日(土) 13:00～17:30
場　所:岡山大学医学部　臨床講義棟　臨床第二講義室
参加者:45名

■13:00～14:15　特別講演
座長　岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
「日本における放射線治療技術史　～原体照射法の開発、発展を経験して～」
元 愛知県立愛知県がんセンター 放射線治療部 医療法人偕行会 名古屋共立病院 医療技術部 顧問
同 放射線治療品質管理室 室長 内山 幸男 先生
■14:30～17:30　合同シンポジウム
「中国･四国広域における放射線治療技術者の地域連携と人材育成の課題」
司会進行　岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
倉敷中央病院放射線センター 山田 誠一
■14:30～16:10　大学病院の現状
■16:10～16:40　拠点病院の現状
■16:40～16:55　がんプロ修了生の現状
■16:55～17:00　準備(休憩)
■17:00～17:30　パネルディスカッション

終了報告

今回のセミナーでは、中四国地域の関連病院や院内スタッフ･大学院生等を対象に、講演会およびシンポジウムが行われた。特別講演では、名古屋共立病院　内山先生より、放射線治療や照射技術の変遷に関する歴史について約半世紀に渡っての概説をしていただき、経験談とともに非常に貴重な講演となった。シンポジウムでは、大学病院や拠点病院の現状と課題について、コンソーシアム内外の中四国各大学病院の放射線治療スタッフから報告があり、参加者の意見も交えて活発な議論が繰り広げられた。シンポジウムより、放射線治療に従事する技術者の配置数や体制に、大学間格差があることが浮き彫りになった。今後の若手人材育成に関しても、活発な議論が交わされ、人材育成を行える環境作りに向けて、様々な対策が必要であることも見えてきた。がんプロ活動を通じて、連携しながら解決を図る道筋をつけることが今後の大きな目標となり、盛況に終わった。
参加者からは、「現場側としては、客観的なデータをもとに大学間格差があることを知る機会となりました。今後、各大学病院での足並みを揃えるきっかけ作りに貢献すると思われます。」、「学生教育の質の向上と臨床現場での人材育成に向けた取り組みは、今後のがんプロ活動では本格化してくることと予想されます。実際に臨床側で必要な対応を検討しなければならないため、職場内での整備が早急に必要であり、それに向けた議論もまた必要ではないかと思いました。今後の活動にむけて、さらに発展していく良いきっかけになったのではないかと思います。」との声があり、非常に有意義な会となった。

岡山 第12回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年10月17日（水）19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11C）
参加者：8名

座長　岡山大学病院医療技術部放射線部門　大野 誠一郎
■「3T MRIである理由」
　鳥取大学医学部附属病院　放射線部　山下 栄二郎　先生
■フリーディスカッション

終了報告

　本講演会では、3T MRIの臨床現場における有用性について、鳥取大学医学部附属病院　山下　栄二郎先生に講演していただいた。3T　MRIは、近年急速に普及しはじめて注目されているが、鳥取大学では中四国地区で初めて3T　MRIを導入しており、豊富な臨床経験のもと従来の1.5T装置との比較やその醍醐味についてわかりやすく説明があった。ディスカッションでは、参加者からの活発な質問や意見があり、充実した議論が行われた。
　参加者より、「3T　MRIでは、従来の1.5T　MRIに比べてより感度が高く高分解能であり、従来は描出が困難であった細い血管も鮮明に撮影することが可能となり、質の高いMRI検査を行うことができることがわかりました。」「放射線治療への応用を視野に入れたMRIに関する最新臨床技術について、わかりやすく講演していただき、とても有益だと感じました。」との評価があった。

岡山 第13回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日　時：平成24年10月24日（水）19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11階　カンファレンスルーム（11H）
参加者：10名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田　将皇
■「中四国地区における放射線技術・医学物理教育のあり方について」
　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
　保健科学部門　医用情報科学講座　西原 貞光　先生
■フリーディスカッション

終了報告

　この度、放射線技術・医学物理教育のあり方や臨床における学術活動との関わりについて、徳島大学西原　貞光先生によるセミナーを開催した。中四国地区における放射線技術・医学物理教育の原点から現在に至るまでの背景、そして将来展望についてご講演いただいた。講演後は、会場からの質問や意見を交えて、充実した質疑応答となった。
　参加者からの評価として、「臨床側からの考えと教育側からの考えが調和することで、より効果的な教育が可能であることが理解できました。また、中四国地区は古くから放射線技術、医学物理教育が確立され、臨床研究や臨床教育が実践されてきた背景があることを学びました。」、「がんプロ活動を通じて新しい展望が見えはじめ、徐々に充実してきているのではないかと思います。今後も継続的に企画すると共に、多くの人が参加できるような環境を目指していただきたいです。」との声があった。

広島 第2回 広島緩和ケアフォローアップ研修会

日　時：平成24年10月28日（日）9:30～17:30
場　所：広島大学基礎・社会医学研究棟2階セミナー室2
参加者：31名

講　演
M-11 治療・ケアのゴールを話し合う
M-12 アドバンス・ケア・プランニング
M-10 包括的アセスメント
M-6c 倦怠感
M-13 輸液と栄養
M-14 苦痛緩和のための鎮静
M-15 死が近づいたとき

セッション担当者
M-11 樫本 和樹　三次中央病院　放射線科
M-12 小原 弘之　県立広島病院　緩和ケア科
M-10 杉原　勉　社会医療法人昌林会　安来第一病院　乳腺外科
M-6c 三浦 剛史　日本医科大学　千葉北総病院泌尿器科
M-13 小早川 誠　広島大学病院　緩和ケアチーム室
M-14 足立 誠司　藤井政雄記念病院　緩和ケア科・地域医療科
M-15 上杉 文彦　東広島医療センター　麻酔科

終了報告

　がん診療に携わる医師の緩和ケアに関する技術・知識の向上をめざし、緩和ケアフォローアップ研修会を開催した。研修会では、各がん診療拠点病院で開催されている2日間の研修会（PEACE）の追加プログラムであるEnd-of-Life　careに関わる知識や技術、ケアに携わる基本的な態度に関するプログラムを盛り込んでいる。参加者は熱心に議論に参加し、時間が経過するとともに熱を帯びていく研修会であり、満足されていた。
　参加者からは、「明確なエビデンスやガイドラインがない方針の話であり考えるいいきっかけになりました。」「また実施していただきたいと思います。大変勉強になりました。多職種のかたの話が聞けてよかったです。」などの声があり、好評であった。

香川 第3回 香川県がん診療連携拠点病院研修セミナー

日　時：平成24年10月30日（火）18:00～19:00
場　所：香川大学医学部　臨床講義棟1階
参加者：60名

講　演
テーマ：がんの分子標的療法について
司会：松永 卓也（香川大学医学部 内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学 教授）
「泌尿器がんの薬物療法：前立腺がんと腎がん」
　筧　善行（香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 教授）
「分子標的薬による胃癌・大腸癌の治療」
　合田 文則（香川大学医学部附属病院 腫瘍センター長 総合診療部 准教授）
「乳癌におけるHER2分子標的療法の治療効果と効果予測因子の同定」
　紺谷 桂一（香川大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌外科学 准教授）
「分子標的治療薬の infusion reactionとその対策」
　朝倉 正登（香川大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤主任）

終了報告

　本セミナーは、「がんの分子標的療法」をテーマに開催され、講師の先生方から分かりやすい内容でご講演いただき、大変有意義なセミナーとなった。
　また、多くの参加者を得ることができ、盛況に終わった。

Participation university

参加大学

Consortium　Member

川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012

岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師（がん看護）コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984

広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538

香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074

山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058

徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111

愛媛大学
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868

徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009

高知県立大学
University of Kochi

※2011年4月より「高知女子大学」から
校名を変更しました。

がん高度実践看護師（APN）養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580

高知大学
Kochi University

臨床腫瘍医内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍医外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム　Vol.36

□ 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086－235－7023　info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所
有限会社 ファーストプラン